

Konrad Szaciłowski 教授 講演会

「よく知られた物質の新しい側面：非従来型メモリスタデバイス」,
学術振興会拠点形成事業「マテリアル知能」大阪大学研究会



目で見える
海外講師講演会

松本 卓也*

“A new face of well-known materials: Unconventional memristive devices”,
JSPS Core-to-Core Program “Material Intelligence” Meeting in Osaka University.

Key Words : In-material computation, Neuromorphic computation,
Memristor, Metal complex

<講演会名>

“A new face of well-known materials: Unconventional memristive devices”, JSPS Core-to-Core Program “Material Intelligence” Meeting in Osaka University.

<開催場所> 大阪大学豊中キャンパス理学研究科
塩見記念室

<開催日> 2024年5月2日

<講師> ポーランド AGH 科学技術大学
Prof. Dr. Konrad Szaciłowski

2024年5月2日に大阪大学豊中キャンパス理学研究科の塩見記念室において、AGH University of Science and Technology in Kraków, Poland (AGH 科学技術大学 (クラコフ、ポーランド))、Academic Center for Materials and Nano-technology (ACMiN, 材料およびナノテクノロジー学術センター) の Konrad Szaciłowski (コンラート・シャチウオフスキー) 教授をお招きして、“A new face of well-known materials: Unconventional memristive devices” (よく知られた物質の新しい側面：非従来型メモリスタデバイス) と題したセミナーを開催しました。本セミナーは報告者の松本がコーディネー

ターを務める日本学術振興会研究拠点形成事業 (JSPS Core-to-Core Program) : 「マテリアル知能 (Material Intelligence)」の国内拠点事業として、シャチウオフスキー教授を招いて北海道大学、大阪大学、九州工業大学で行なわれた連続講演の一つです。シャチウオフスキー教授は、錯体化学、光化学、電気化学分野における物質と手法を駆使して、物理演算を実行する研究で注目されています。遷移金属錯体の多様な電子状態をうまく利用したメモリスタや、神経型デバイス、リザーブ計算に関する研究を展開しておられます。今回は、よく知られた様々な物質の中に見出されるメモリスタ機能について、身の回りの物質や生体にまで範囲を広げた多彩な研究をご紹介します。

連休谷間の5月2日で、しかも午後5時から開始という、講演会としては聴衆の集まりにくい条件であったにもかかわらず、阪大理、基礎工、工学部、阪大外部から26名の学生や先生方にお集まりいただき、活発な討論が行われました。講演会終了後は、シャチウオフスキー先生のご趣味のビールの化学に関するご研究のご講演をされて、そのスライドを映したまま箕面ビールで乾杯して懇親会へと移行し、大変楽しいひと時となりました。これを機会に、AGH 大学と理学研究科で学術交流協定、学生交換協定を結ぶことも検討を開始することになり、大変有意義な講演会でした。

最後になりましたが、今回の講演会の開催に際して、本講演会は生産技術振興協会の海外講師講演会奨励事業からのご支援をいただきました。関係各位に厚くお礼申し上げます。



Konrad Szaciłowski

1971年生まれ
AGH University of Science and
Technology in Kraków, Poland
Academic Center for Materials and
Nano-technology 教授 博士
専門/ナノ科学、材料化学、配位化学、
物理化学
E-mail : konrad.szacilowski@agh.edu.pl

*講演会主催者 大阪大学大学院理学研究科化学専攻 教授



講演中の Szacilowski 教授



講演会場の様子



講演会後の Szacilowski 先生お得意の「ビールの化学」の講演スライドと懇親会の様子